

※大会参加選手	川島 光幾（大麻3年・FW）	谷川 蘭（湧別3年・BK）
	石崎 未祈（札幌厚別3年・BK）	安田 美結（帯広柏葉2年・FW）
	畠山 奎（帯広柏葉2年・BK）	山口視哉子（札幌山の手2年・FW）
	木村 あや（札幌山の手2年・BK）	佐藤 真琴（中標津2年・BK）
	山崎 美有（中標津2年・BK）	越前 萌（中標津2年・FW）
引率スタッフ	中澤 孝弘（大麻高校）	加藤 秀和（帯広柏葉高校）

◎遠征1日目・移動日

羽田空港にて全員集合。9月のセレクション後、全員揃うのは初である。練習とコミュニケーション不足が心配であった。しかし、少ない人数ということもあり、全員落ち着いた行動をとれる選手なので、すぐに打ち解けた。電車などを乗り継いで移動し熊谷駅へ。路線バスで事前練習を行う立正大学へ移動した。着後すぐに1時間弱の体を動かす程度の練習を行った。ほとんどの選手が久しぶりにスパイクを履き、地面（人工芝）での練習だった。短い時間であったが、北海道代表チームの練習ということもあり、疲れも見せずに意欲的に練習していたのが印象的だった。

今回は選抜大会出場で初めての北海道単独チームである。北海道選抜10名チーム。予想されるのはレベルの違いであった。各地区の強化は進んでおり、事前にこの大会に向けて練習をしているのは当たり前である。北海道は雪があり、広さがありで事前練習が全くできず、個々の学校での練習に任せている状態である。単独チームでこの大会に出場できるレベルなのか大きな心配であった。

夕食後、ミーティングで自己紹介や今大会についてと今後の国体などに向けての女子ラグビーの取り組みや活動について説明し、明日のグラウンドで練習しながらゲームについてなど確認することになった。



事前練習を行った立正大学。宿舎・グラウンドなど素晴らしい施設だった

◎遠征2日目・強化練習（ARUKASセッション）

今回の宿舎は立正大学ユニデンスという学生寮である。非常に立派な施設であり、値段も格安である。グラウンド（人工芝）も貸して頂き素晴らしい環境で強化練習をすることができた。まずは朝食前に早朝練習を行った。選手には事前に連絡をしていたが、この大会に向けて調整練習をする予定ではなく、今後に向けての強化練習をした。今日は3部練習である。早朝からコンビネーションの練習をして少しでも大会で戦えるように気持ちを高ぶらせた。

午前・午後練習は立正大学を拠点としている女子チーム「ARUKAS QUEEN KUMAGAYA」のセッションである。この機会に是非とお願いすると快く受け入れて頂いた。女子ラグビー日本一チームとの練習で正直心配したが、コーチ陣が北海道チームの選抜大会に向けての練習をしてくれた。この練習がなければ、選抜大会では全く戦えなかったと思う。基本的なアタックとディフェンス、基礎コンタクトなど人数ゲームを入れて楽しく面白く真剣な練習だった。遠征メンバーがいなかったため全員ではないが、選手たちも指導してくれて感謝の気持ちで一杯だった。練習後はサインをもらったり、記念撮影などもしてもらい、選手にとって非常に良い1日になった。夕食、ミーティングをして就寝。



コーチの適切な練習は非常に参考になった。日本代表の小出選手・大黒田選手・田坂選手も指導してくれた。



ARUKASコーチ陣の細かい指導法。練習後のアイシング。

◎遠征3日目・調整練習

残念ながら雨のため、早朝練習はストレッチ程度にした。午前はグラウンドを使わせてもらい昨日の復習を兼ねた調整練習をした。心配した雨もやんでしっかりとした練習をすることができた。北海道出身のARUKAS中澤選手が練習についてくれて、細かい部分まで指導をしてくれた。選手たちは教えられたことを素直に実践しようとし、昨日の練習を合わせてかなりレベルアップをした。最初はパスもつながらないチームだったが、何とかラグビーチームに変貌した。ARUKASの皆さまのご指導の賜物であるが、選手たちの素直に学ぶ姿勢も頼もしく感じた。

シャワー室を借り、昼食を頂いて、大会宿舎の深谷市に路線バスと電車で移動した。夕食、ミーティング後、明日の試合に向けて就寝。



素直な態度で多くのことを吸収した。北海道出身、中澤選手と。

◎遠征4日目・選抜大会

大会当日、小雨降る中、ホテルが深谷市のため、朝は7時前に移動。しかしそれにもかかわらず、熊谷駅は春休みもあり、他競技の大会などで乗る予定だったバス停は長蛇の列。急遽タクシーに変更したが、タクシー乗り場も長蛇の列。南口に移動してやっとタクシーに乗ることができた。これは大きな課題である。予定よりも早めに行動していたので時間には余裕があった。寒い中、開会式が行われ、初戦の鹿児島女子ラグビーチームとの対戦に向けてアップをした。予選リーグはメインスタジアムである。どのような試合になるか正直心配し、全試合大敗も覚悟したが、とにかくできることを一生懸命にやるよう送り出した。

事前練習の成果が出たのか、ミスはあるもののそれなりにディフェンスをした。前半は3トライされたが、木村（山の手）が2トライし12-17で折り返す。前半終了間際のトライで追い上げムードになったが、後半は2トライされて突き放され、結果12-29で敗戦した。もっと練習期間があれば正直勝てたであろうと思わせる内容でもあった。予選リーグ2戦目は優勝候補、関東を勝ち上がった栃木選抜。前半0-40、後半0-45、計0-85で大敗した。レベルの差を大きく感じたゲームだった。予選2敗で3位になり、ボウルトーナメントに進むことになった。予選リーグではチームの練習を控えているにもかかわらず、ARUKASのコーチ陣と選手が北海道を応援してくれて大きな勇気を与えてくれた。

午後、初戦は徳島県鳴門渦潮高校。単独チームである。一進一退の攻防が続き、前半は5-5。絶対に勝ると確信して後半に勝負と送り出したが、トライをされ、5-10で惜しくも敗戦となった。チーム練習をしっかりとしてきた差が1トライだった。悔やみきれない1戦だった。

最終戦はこれも単独の群馬県大泉高校。前半は5-12と粘ったのだが、けが人も出て、後半は明らかにペースダウンしてしまった。結果、12-31で敗戦し、全敗となった。



閉会式後、路線バスを待ったが、2本連続満員で乗れず、タクシーで熊谷駅に移動した。疲れている中、2時間近くのロスになった。出費を考えて路線バスを選んだが、最初からタクシーで移動すべきと大きく後悔した。熊谷駅から東京に移動し、浅草橋のホテルに着いたのは21時近くだった。



閉会式の様子。ロッカーにサクラセブンズ、ARUKASの鈴木選手が来てくれて記念撮影。

◎遠征5日目

朝食時に解団式を行い、それぞれ羽田空港に移動して各空港から帰路へ。

◎大会総括

練習不足を痛感した。積雪や広さのためチーム練習が全くできなかったことが大きく響いた。あと1週間でも練習することができれば勝つことが・・・と思う。今後何か手立てがないかと考える。選手は10名と少ない中で奮闘した。初めてのチーム練習と試合という本来では大会参加に向けて考えられない状況でも、しっかりと対応してくれた。実際、ARUKASの方々が口々に「素直にやろうとしてくれるから教えがいがある。」「素直だから教えて楽しい」などお褒めの声を頂いた。日ごろから各学校の先生方のご指導のおかげである。学ぶ意欲と意識、練習に向き合う姿勢がしっかりしている。生活面でも心配するようなことはなく、安心できた。だからこそ勝利がほしかった。残念でならない。

事前練習はARUKASコーチ札幌山の手高校・国士舘大学出身の安田コーチの計らいで行うことができた。宿舎・グラウンド・セッション全てを希望通り設定してくれた。試合の前のロッカーにARUKASの阿部トレーナーがわざわざ来てくれ、選手2名にテーピングまでしてくれた。至れり尽くせりの対応だった。

このようなチーム状況でも十分戦えることが理解できた。事前練習が大きな成果をあげたのはもちろんであるが、日常男子と一緒に練習をしている選手が多いのが理由である。学校にもよるが男子部員がいるのであれば、可能な限り男子と練習すべきである。特にランとパスプレーは顕著であるように思う。

北海道としてはやはり単独出場を目指すべきであろう。今後練習会や合宿など国体を見据えて高校生だけではなく、大学生・社会人一体となって行う計画もある。北海道で独自の大会を行うなど、女子選手の活躍の場を増やすことが北海道の強化に大きくつながると思う。

最後に今回の遠征に関して、保護者の皆様、各学校の顧問の先生方、事前練習に協力いただいた立正大学、ARUKASの皆様、遠征時にご協力やお世話になった皆様へ感謝し、書中をもちましてお礼申し上げます。